



筑波大学生の健康体力の推移 — 体力測定データの読み解く —



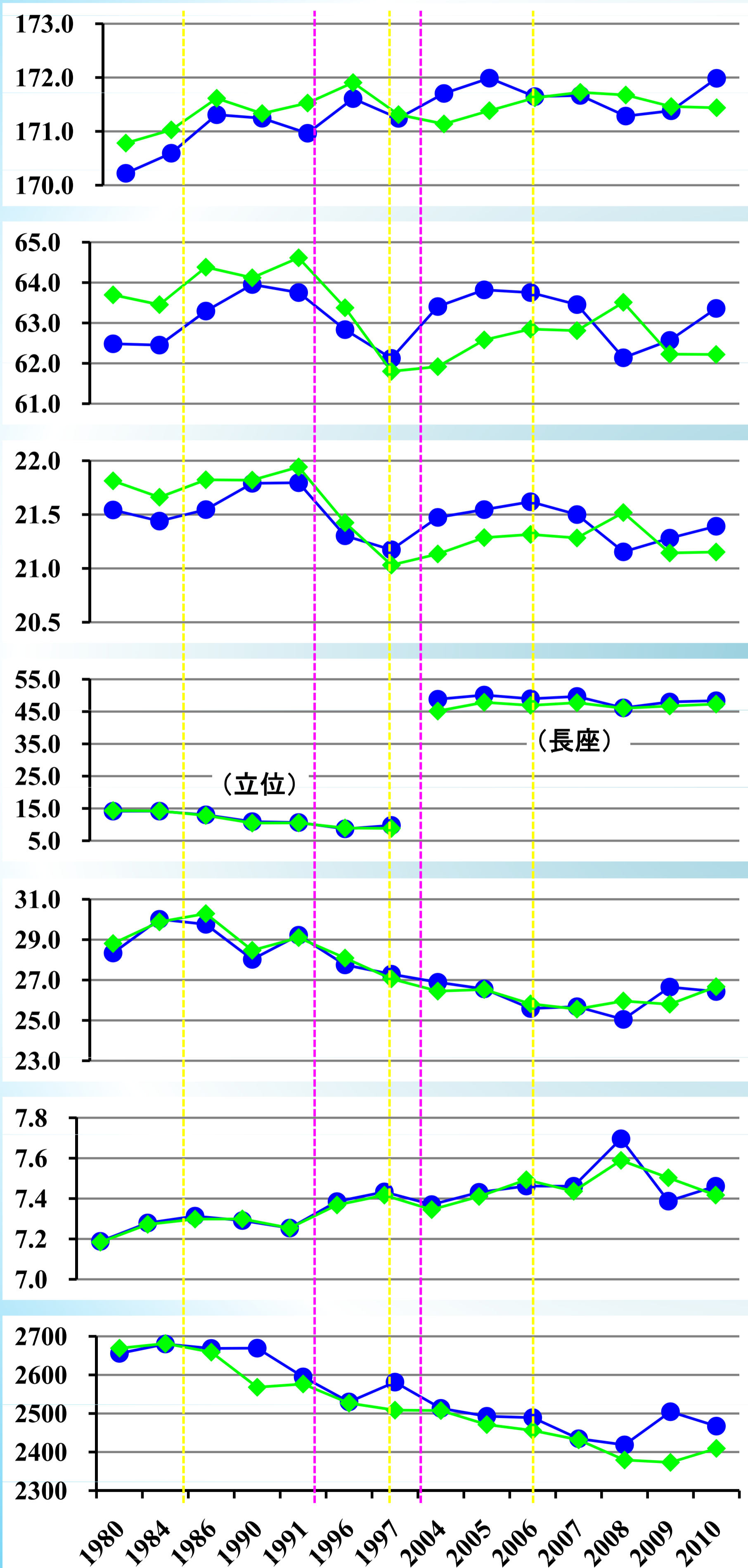
富川理充¹, 清水武¹, 中田由夫², 高木英樹³, 宮下憲⁴

¹人間総合科学研究科 研究員, ²人間総合科学研究科 助教・CREILセンター, ³人間総合科学研究科 准教授, ⁴人間総合科学研究科 教授・体育センター長

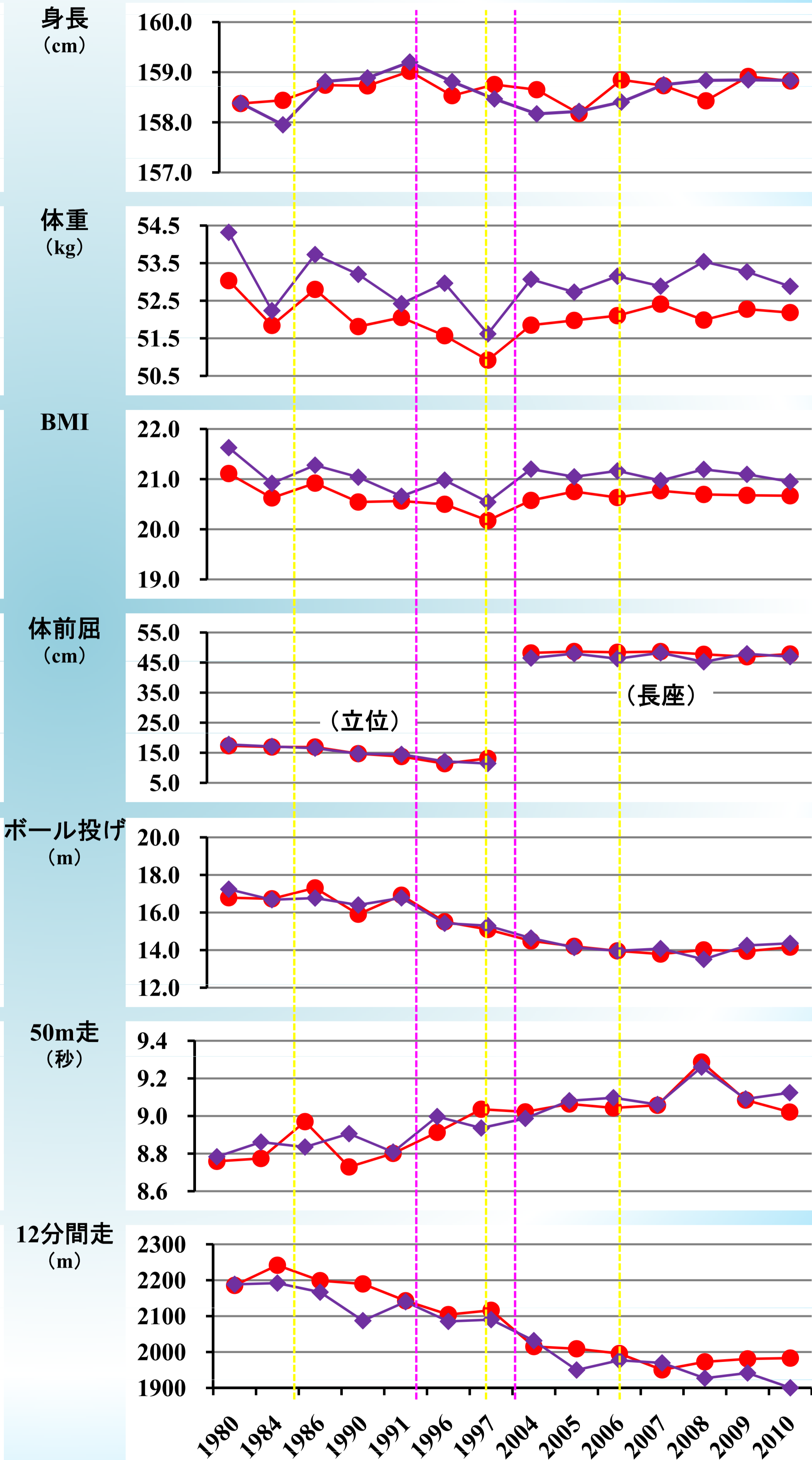
在籍学生数	1980	1984	1986	1990	1991	1996	1997
1年次	1549 (376)	1689 (463)	1880 (501)	2077 (696)	2120 (669)	2161 (757)	2162 (786)
2年次	1319 (320)	1424 (423)	1462 (397)	1770 (588)	1817 (621)	1929 (765)	1940 (714)
	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
1年次	2315 (934)	2340 (941)	2340 (998)	2290 (955)	2272 (902)	2297 (914)	2218 (886)
2年次	2044 (871)	2048 (859)	2079 (870)	2088 (917)	2030 (880)	2027 (840)	2049 (834)

2年次は体育専門学群生を除いた人数。()内は女子の内数。
＜筑波大学学群関係統計資料および年次報告書より引用、一部改変＞

結果： 男子 (1年次; 854 ≤ n ≤ 1610、2年次; 471 ≤ n ≤ 1348)



女子 (1年次; 300 ≤ n ≤ 990、2年次; 255 ≤ n ≤ 765)



社会背景：
黄抜き () 内は、
高校実施時期。

ゆとりカリキュラム
(1982~) 世代

大綱化
(1992~) 世代

新学力観
(1994~) 世代

スポーツ振興基本
政策(2001~)

新学習指導要領へゆとり教育
(2003~) 世代

新学習指導要領の改訂
(2015~) 世代

まとめ：

- 男女別、あるいは学年別の推移に大きな差はみられなかった。
- 身長は増加傾向、体重は横ばいであり、BMIは減少傾向にあった。
- 体前屈 (柔軟性) は、立位時 (~1997) は減少傾向に、長座時の測定となった以降 (2004~) は横ばいであった。
- 投能力 (ポール投げ)、走能力 (50m走、12分間走) とともに、2008年までは低下傾向、それ以降は横ばい、あるいは改善傾向であった。
- 時代背景、社会背景との関連はさらなる検討が必要であった。